

## 「教育と公共」研究部会（第28回）

日時：2021年9月10日（金）13:00～16:00

場所：オンライン（Zoom使用）

出席：田嶋一・上野正道・浅井幸子・狩野浩二・仲田康一・藤井佳世 各兼任研究員  
吉久知延所長・山口和人・川上智子（野間教育研究所事務局）

内容：（1）狩野研究員：横山芳春著『日本語を学ぶ中国の若者たち 詩の授業による心の交流の記録』  
（ボーダーインク、2021年）の紹介

- ◆横山芳春は、斎藤喜博による島小の学校づくりを原点とする運動の系譜に連なり、沖縄の三小  
学校にて学校づくりを主導した（2004～2014年）
  - ・横山は民間人校長を志願（2003年）した際、西江重勝（当時、那覇教育事務所長）の講話を  
偶然聞き、そこで斎藤喜博の名を知る
  - ・これが契機となり、授業研究を「核」とする学校づくり運動に入っていくことになる
  - ・これは斎藤喜博の学校づくり運動の中では新しい動きといってよい
  - ・本書は横山が宜野湾市立長田小の学校づくりを終えた後に、中国の大学で日本語教師として  
行った授業の記録。教材として日本語による短詩形文学を使用しているところが特徴

（2）上野研究員：Gert Biesta, *Obstinate education: Reconnecting school and society*, Leiden,  
London: Brill Sense, 2019 の翻訳『教育にこだわる―学校と社会を結びなお  
す』（東京大学出版会、2021年刊行予定）の紹介

- ◆ビースタによれば、教育の課題は生徒に「主体として存在することの欲望」を引き起こす  
ことにあり、それによって「世界の中に、世界とともに成長した仕方」で存在する「実存  
可能性」を開くことにある
  - ・1章 グローバル・ネットワーク社会における民主的教育の可能性
  - ・2章 ドイツ語圏における「ビルドゥング」の実存的、政治的次元
  - ・3章 「アイデンティティ」の獲得と「主体化」の違い
  - ・4章 クリティカル・シンキングにおいて「批判的ドグマティズム」と「超越論的批  
判」に対して「脱構築」から得られるレッスン
  - ・5章 生徒が「世界の中に到来すること」としての哲学の役割
  - ・6章 教師と生徒の間に「隔たり」「ためらい」があることの重要性
  - ・7章 「トランスクルージョン」という考え方
  - ・8章 デューイの民主的教育「再訪」
  - ・9章 教育的なものや政治的なものをつなぎ直すための「公共教育学」

・次回研究会 10月15日（金）13:00～